

農山漁村集落における 自然災害復旧支援計画特別研究委員会

活動成果
070320 伊藤庸一

04年10月23日 新潟県中越地震 M6.8 最大震度7

死者:46人

全壊:2824戸

一部損壊:103964戸

河川崩壊:229カ所

重傷者:633人

大規模半壊:2024戸

非住家被害:39210戸

崖崩れ:442カ所

軽傷者:4161人

半壊:11082戸

道路寸断:6064カ所



農山漁村集落における自然災害復旧支援計画特別研究委員会

設置目的

農村計画委員会 + 災害委員会を核として

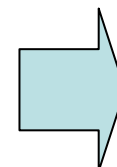
農山漁村集落における被災集落の被害・復旧・復興・再建に関する研究蓄積を集約
防災、避難、復旧・復興・再建支援の方策について検討をすすめる

研究項目

- ・農山漁村集落における被災事例の集約
- ・台風・地震・津波・豪雪など自然災害別の防災・避難・復旧復興再建支援の課題整理
- ・農山漁村集落におけるコミュニティ効果についての検討
- ・農山漁村集落における過疎化・高齢化・広域化に関する課題抽出
- ・農山漁村集落型の防災・避難・復旧復興再建支援の方策の検討

組織

委員を公募、本委員会、小委員会、WG、計38名で活動



はじめにに収録

06年1月8日 新潟県中越地震緊急報告
「農山村の自然災害に農村計画は何をなすべきか」

緊急報告

- 1.新潟県中越地震農村地域自治災害対応能力調査 浦上健司(日本大学)
- 2.新潟県中越地震報告-川西町の場合- 内田文雄(山口大学)
- 3.都市を支えた農村 阪神淡路大震災 神戸市西区・北区の果たした役割 前田真子(奈良女子大学)

会場討論 / 農山村型自然災害に対し農村計画が取り組むべき課題

1. 高齢化と過疎の問題
2. 農村の持つ自立性の維持
3. 土地の形質を読みとる伝統的な配置を再評価
4. 避難所の知識の共有
5. 応急仮設住宅の配置や性能の提案
6. 災害時の支援における都市農村交流の役割
7. 日常的な付き合い(組、班など)の有効性
8. 災害時のゴミを処理する計画
9. 農業や林業の再生
10. 短期集中的な投資ではない環境資産としての集落モデル

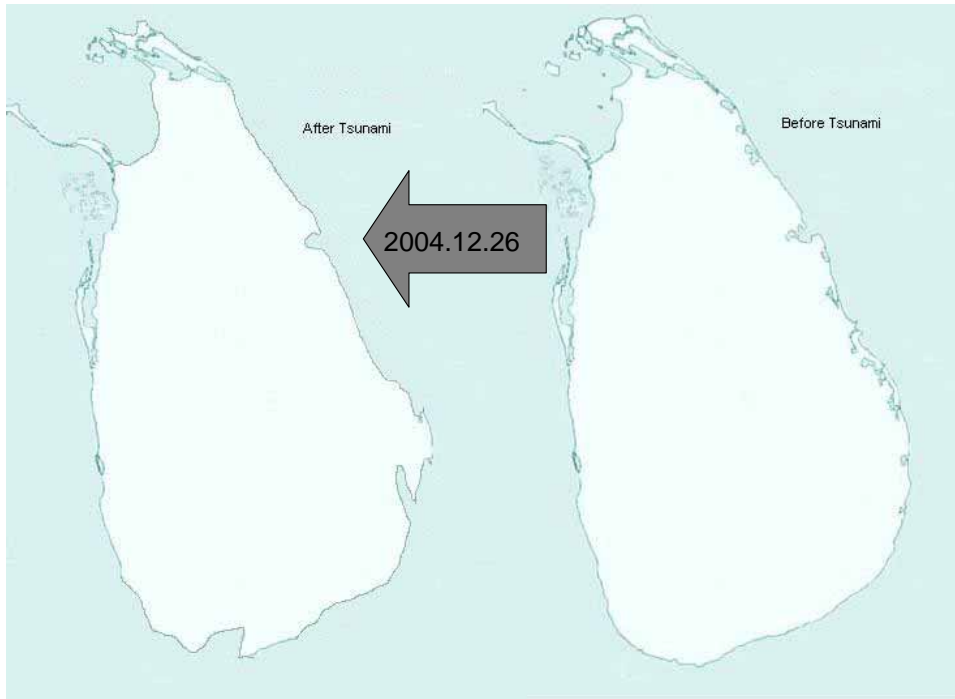


はじめにに収録

2004.12.26に発生したマグニチュード9.0のスマトラ沖大地震は、インド洋大津波を引き起こし、各地で未曾有の被害が発生した

04年12月26日 スマトラ島沖地震 M9.0 大津波による被害 推定28万人

ロイター通信などによる	国名	死者	行方不明者
	インドネシア	96,000人	132,000人
	スリランカ	38,000人	5,600人
	インド	11,000人	5,600人
	タイ	5,400人	3,100人
	東アフリカ4カ国 (ソマリア、ケニア、タンザニア、 セーシェル)	137人	
	マレーシア	74人	
	モルディブ	82人	26人
	ミャンマー	59人	
	バングラデシュ	2人	2005/01/25現在



05年3月20日 福岡県西方沖地震 M7.0 震度6弱

死者:1人

全壊:33棟

道路寸断:165カ所

漁港被害:18カ所

負傷者:750人

半壊:57棟

水道被害:32カ所

林地荒廃・治山施設被害:11カ所

避難者数:1137人

一部損壊:2721棟

湾岸被害:32カ所



集落災害復旧支援特別委 24名

災害復旧wg 6名

05年度近畿大会PD

農村計画部門と共催

「震災直後の居住支援を考える」

震災直後の集落の人々の行動

浦上健司(日本大学)

集落災害における避難施設はいかにあるべきか

宮野道雄(大阪市立大学)

集落災害における仮設住居はいかにあるべきか

渡辺 斉(新潟県庁)

集落災害における住宅再建の課題は何か

深澤大輔(新潟工科大学)

震災半年～の集落の人々の暮らし

瀬沼頼子(昭和女子大学)

2005年度日本建築学会大会(近畿)
農村計画部門+特別研究部門
パネルディスカッション資料

震災直後の居住支援を考える

農山漁村集落の災害復旧支援 その1



2005年9月

社団法人 日本建築学会

農村計画委員会

農山漁村集落における自然災害復旧支援計画特別研究委員会



玄界島集落再建wg 4名

玄界島の集落再建を考える

現地調査

検討会

研究会

シンポジウム

シンポジウム「玄界島の集落再建を考える」

今年3月30日に発生した福岡県西方沖地震により玄界島の集落は壊滅的被害を受け、被災者数は約100戸、被災世帯数は約100世帯に達した。被災者の中には、被災した集落の復興を望む声も聞かれる。一方、復興計画は、被災者から生まれた復興計画と、復興計画には見られなかった集落の復興が求められる。一方、復興計画は、被災者から生まれた復興計画と、復興計画には見られなかった集落の復興が求められる。一方、復興計画は、被災者から生まれた復興計画と、復興計画には見られなかった集落の復興が求められる。

主催 日本建築学会 農山漁村集落自然災害復旧支援特別研究委員会・農村計画委員会
日時 2005年10月28日（日）12:30～ 17:00
会場 博多駅地区土地広域管理記念館（福岡市博多区博多駅前4丁目23-9）

内容 司会：岡田知子（西日本工業大学）
主旨説明：伊藤庸一（日本工業大学）
報告1 玄界島の被災調査 江崎文也（福岡大学）
報告2 福岡市のとり組みと現状 濱川智治（福岡市都市整備局玄界島復興担当部長）
報告3 福岡市の農山村における災害対応 長一 純子（九州大学）
報告4 復興計画に学ぶ 山崎寿一（神戸大学）
報告5 新潟県中越に学ぶ 栗村 力（神戸大学）
報告6 スリランカの津波による被災状況 伊藤庸一（日本工業大学）
討論

定員 50名（申込先着順）
参加費 会員1,000円、会員外2,000円、登録メンバー1,500円、学生500円（資料代含む）
申込方法 E-mailにて「姓名字、氏名、勤務先・所属、電話番号、E-mailアドレス」を順記のうえ申し込む。
申込・問合せ 事務局研究推進部 大野 E-mail: onob@ij.or.jp

07年1月
福岡県西方沖地震・玄界島復興での
戸建て住宅計画の報告・検討会



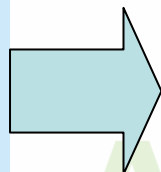
研究会「玄界島の復興計画を考える」

主催 日本建築学会 農山漁村集落自然災害復旧支援特別研究委員会・農村計画委員会
日時 2005年10月28日（金）14:00～ 17:00
会場 アクロス福岡 セミナー室2（福岡市中央区天神1-1-1）

内容 司会：加藤仁美（環境デザイン研究室）
主旨説明：伊藤庸一（日本工業大学）
計画案の骨子に関わる調査結果報告：岡田知子（西日本工業大学）
JIAのとり組み：加藤武弘（総合建築設計研究所）
討論
まとめ：河野泰治（福岡大学）

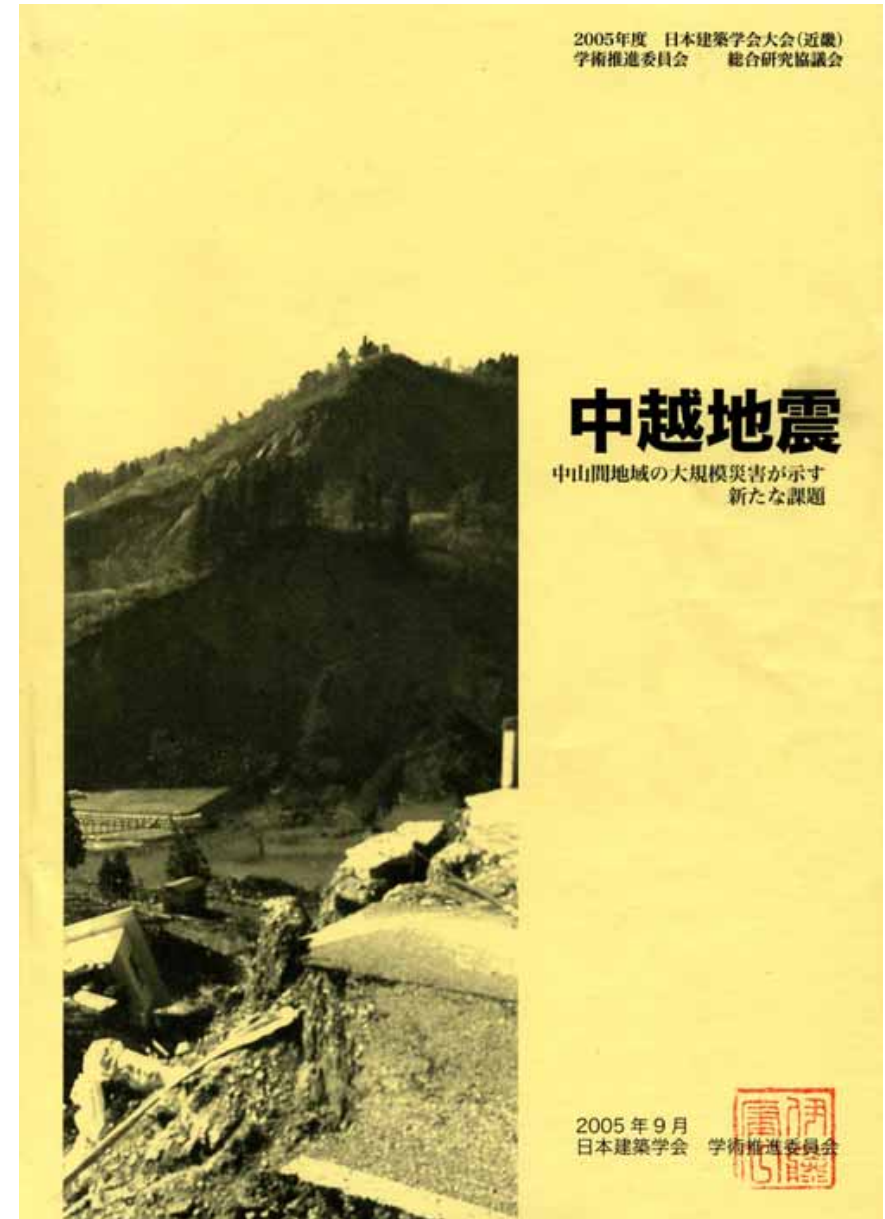
参加費 無料
問合せ 西日本工業大学 岡田知子 E-mail: okada@nishitech.ac.jp FAX: 0932-23-8631

07年4月
研究会「被災集落の支援のあり
方について考える」



中越震災復興総合研究小委員会 15名

中山間・沿岸集落から地方都市に至る地域での地震災害、特に中越地震の被害とその復興過程であられた諸問題、また、阪神・淡路大震災以降明らかになってきた知見も念頭に、これら地域の安全性と持続性の確保について検討



05年10月
中山間地域等の地震防災と復興対策への提言
新潟県中越地震に鑑みて

A 中山間地域等の社会と空間の特性に配慮した防災・減災への事前対応(予防対策)

B 災害発生直後からの対応の充実(緊急・応急対策)

B - 1 緊急調査から避難所の適切な設置まで

B - 1 緊急調査から避難所の適切な設置まで

B - 2 コミュニティを重視した応急仮設住宅の設置

B - 3 既存住宅の修理と生活の再建

C 集落の復興計画とその着実な実現(復興対策)

C - 1 地形や風土に調和した復興の目標と集落の再構築

C - 2 中山間地域等の特性に配慮した住宅再建

C - 3 住民が主体になった地域復興とその支援

20項目



5章-2に収録



淡路一宮町・復興住宅



SriLanka/Balapitaya・仮設住宅



京都豊岡・台風23号被災水深



和歌山湯浅町・津波注意

06年度 日本建築学会 技術部門設計競技 / 農村計画委員会

自然災害で居住地が甚大な被害を受けた 農山漁村集落の再建計画

地震で大きな被害を受けた福岡県玄界島、新潟県中越
またはその他の自然災害を受け
再建計画を立案中、または再建中、あるいはすでに再建した農山漁村集落
のいずれかを計画対象とすること

地形・風土との調和を図り
地域コミュニティに配慮した
居住地再建計画のアイデアを提案すること

福岡県玄界島を対象とした作品は17点
新潟県中越地域を対象とした作品が18点
その他を対象地とした作品が6点(国内4点、国外2点)

最優秀賞1点 (福岡県玄界島)
優秀賞2点 (新潟県中越、ジャワ島)
佳作8点 (福岡県玄界島・3作品、新潟県中越・4作品、熊本県・1作品)

06年度関東大会PD
農村計画部門と共催

自然災害で居住地が甚大な被害を受けた
農山漁村集落の再建計画

入賞者プレゼンテーション

新潟県中越における復興計画 / 三井所清典 (芝浦工大)

福岡県玄界島における復興計画 / 岡田知子 (西日本工大)

ジャワ島地震における復興計画 / 重村力 (神戸大)

建築計画の立場から / 重村力 (神戸大)

都市計画の立場から / 高見沢邦郎 (首都大学東京)

防災計画の立場から / 林静雄 (東京工大)

構造計画の立場から / 和田章 (東京工大)

2006年度日本建築学会大会(関東)
農村計画部門 /
農山漁村集落における自然災害復旧支援計画特別研究委員会
パネルディスカッション資料

自然災害で居住地が甚大な被害を受けた
農山漁村集落の再建計画

2006年9月

日本建築学会

農村計画委員会

農山漁村集落における自然災害復旧支援計画特別研究委員会



4章に収録



長崎雲仙普賢岳・復興住宅



新潟長岡・復興住宅



福岡玄界島・復興住宅



SriLanka Baddewatta・復興住宅

農山漁村集落における 自然災害復旧支援計画特別研究報告

はじめに

1章 最近の集落災害

2章 集落災害と復旧・復興・再建事例

3章 集落災害の復旧復興再建における課題と展望

4章 06年度技術部門設計競技 / 被災集落再建アイデアコンペ

5章 被災集落復旧・復興・再建に向けて

5-1 中越提言

5-2 被災集落復旧復興再建課題

おわりに

2章 集落災害と復旧・復興・再建事例

2006ジャワ島 / 重村力(神戸大学)

2005玄界島 / 岡田知子(西日本工業大学)

2004インド洋大津波から半年・スリランカ津波被害の復興の現状と課題 / 伊藤庸一(日本工業大学)

2004中越地震 / 深沢大輔(新潟工科大学)

2004長岡市小国町における中越地震の災害復旧 / 三橋伸夫(宇都宮大学)

2004中山間地における自然災害が問いかけるもの 新潟県中越地震被災地からの報告 / 長谷川順一(ひと・すまい・環境考房 住まい空間研究所)

2004自然災害における被害の軽減を目指して - 2004年新潟・福島豪雨を事例に / 高尾堅司(川崎医療福祉大学)

1990雲仙普賢岳災害の特徴と復興計画・現状 / 伴丈正志(長崎総合科学大学)

阪神淡路大震災後の淡路市東浦町仮屋地区の復興特性 / 山崎寿一(神戸大学)

鳥取県西部地震の概要と今後の課題 - 鳥取県西部地震直後の初動と公的支援について / 熊谷昌彦(米子工業高等専門学校) 三吉優子 浅井秀子

地震と雪の複合災害 - 中越地震の教訓から - 沼野夏生(東北工業大学)大会PD転載

3章 集落災害の復旧復興再建における課題と展望

中山間地域の地震におけるボランティア活動の実態に関する研究 / 熊谷昌彦(米子工業高等専門学校)・浅井秀子・樋口秀

土石流災害復旧ボランティア活動による参与監察報告 / 小林智哉(日本大学)
自主防災組織 / 竹村城太氏

災害期から復興期における自治的組織の地域社会対応能力と住民の依存意識に関する研究 / 小林智哉(日本大学)・藤沢直樹・糸長浩司・浦上健司・瀬沼頼子

集落災害における避難施設はいかにあるべきか / 宮野道雄(大阪市立大学) 新潟県中越地震における指定避難所の使われ方に関する研究 / 金俊豪(宇都宮大学)・三橋伸夫
集落災害における仮設住宅 / 渡辺斉(新潟県庁)

災害時のエネルギー供給 / 森山正和(神戸大学)・竹林英樹・田中貴宏
災害ごみに伴う諸問題 - 2004年新潟・福島豪雨、2004年台風23号の被災地を事例に / 高尾堅司(川崎医療福祉大学)

新潟県中越地震における住宅再建に関する震災直後の居住者意識 / 浅井秀子(鳥取短期大学)・熊谷昌彦・樋口秀

新潟県中越地震における住宅再建への居住者意識変化 / 浅井秀子(鳥取短期大学)・熊谷昌彦・樋口秀・川口光葵

中山間地域の地震被災者の生活保障を考慮した自治体の住宅再建支援制度に関する研究 / 浅井秀子(鳥取短期大学)・熊谷昌彦

新潟県中越地震における被災住宅に関する公的支援の評価 / 熊谷昌彦(米子工業高等専門学校) 浅井秀子・樋口秀・川口光葵

住宅計画の課題と支援計画 - 新潟県中越地震被災地の場合 - 深澤大輔(新潟工科大学)

集落災害における住宅再建の課題は何か 深澤大輔(新潟工科大学)

新潟中越大震災 集落の人々の暮らし - これからの暮らしと生活課題・支援について - / 瀬沼頼子(昭和女子大学)

三宅島げんき農場就農者による生活再建と復興への意向

- 三宅島噴火災害による被災者の生活再建に関する研究 - / 杉山愛(ミカミ)

地震の被災対応における地域社会の役割

- 福岡県西方沖地震での漁村・農村の対応を通して - / 長聡子・出口敦(九州大学)

地域社会の役割 / 長聡子(九州大学)

自然環境保護と調和した災害対応と地区活性化に向けた住民活動の実態とその意識に関する考察 / 藤沢直樹(日本大学)

大規模地震災害による住民移転が行われた中山間集落の再生に向けた実態と課題の考察 / 金俊豪(宇都宮大学)

中山間地域の自然災害からの移転復興における合意形成条件と集落の持続可能性に関する考察 / 石川永子

中越地震、福岡県西方沖地震の現地調査からみた農村災害・復興研究に関する考察 / 糸長浩司(日本大学生物資源学部)

都市を支えた農村 ~ 阪神淡路大震災を事例として ~ / 前田真子(奈良女子大学)

被災直後の中山間集落における災害対応に関する課題 ~ 新潟中越地震と台風23号による孤立集落の事例を通して ~ / 浦上健司(日本大学)

農山村から都市災害への備え / 皆川数也(株)チュートク

5-2 被災集落復旧復興再建課題

農山漁村における高齢化と過疎化の進展を見すえた集落空間計画を構想する。2拠点居住の仕組みや若者定住の魅力の創出を検討する。

農山漁村の持つ自立性、とくに複合的に支えられている自給能力は、自然災害に際して有効であり、それを維持していく必要がある。

土地の形質、自然環境の特質を読みとった住居や道の立地、家並みや耕地の配置を再評価する必要がある。

災害時の避難所は身近で日常的に利用されている公共施設が最初の拠り所として有効である。地域公民館・集落の集会所を安全な空間として整備する。

応急仮設住宅の配置や性能については、心身ともに安全・安心を獲得できる改善を工夫していく必要がある。仮設であっても地域性の配慮も重要である。

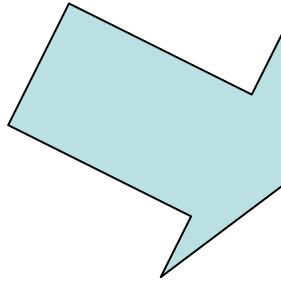
災害時の救援・支援体制、相互支援システムを日常的に構築しておくことが必要である。災害を想定した都市農村交流などを積極的にすすめる。

農村集落の日常的な付き合い(自治会、組班など)は、災害時にきわめて有効に機能した。倒壊した住宅、壊れた家財は大量のゴミとなり、二次災害の原因となりかねない。災害後のゴミ処理計画、さらには日常的なリサイクルに取り組む必要がある。

農業や林業、漁業などの生活基盤をどうするのかは、住民の生活と直結した課題である。集落域には生活にかかわる民間、公的施設が分布し、住民の生活を支えてきた。氏神や寺、墓地も含め、土地に刻み込まれた記憶をも点検する必要がある。

短期集中的な投資による居住者への過度の負担を避けた計画を基本にする。財政的にも次世代が無理なく受け継ぐことのできる復旧復興・再建が求められる。なにより、住民と行政と第3者専門家による話し合いを大事にしたい。

常に起こりうる集落災害
に対し活動を継続する



07年度

農村計画委員会

被災集落支援計画小委員会

中山間地域組織小委員会

農山漁村景観保存小委員会

農村居住小委員会

集落共生デザイン小委員会

田園空間計画小委員会

農村環境教育小委員会